

チーフ・ストラテジスト
建部 和礼

米国とイランが2週間の停戦に合意

交渉の行方に不透明感が残るも重要な進展

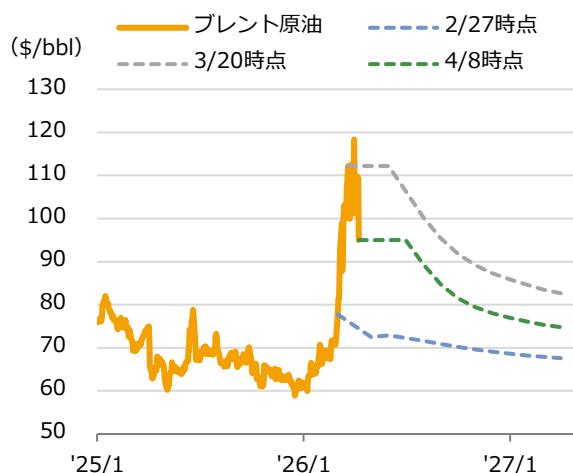
日本株は大幅高、日経平均株価は5万6千円台を回復

トランプ米大統領がイランに対して突きつけていた交渉期限である米国時間4月7日午後8時を目前に、米国とイランは、パキスタンが仲介した2週間の停戦案を受け入れました。停戦は即日発効となります。イランのアラグチ外相は、2週間の間、ホルムズ海峡の安全な通航が可能になると表明しました。2週間の停戦合意を受け、原油価格が急落し、米ドル円は下落、長期金利は低下、日経平均ボラティリティー・インデックスは低下するなど、3月以来のマーケットの巻き戻しが顕著に見られました。日本株は大幅に反発し、日経平均株価は3月5日以来の5万6千円台を回復しています。下落局面で最も激しく売られた景気敏感株やモメンタム株（2月までの数カ月間で上昇が目立っていた銘柄）が反発をけん引しています。

期間限定の停戦ではありますが、お互いに強硬一辺倒な姿勢を見せていた米国とイランが、一時的とはいえ停戦に合意し、包括的な合意に向けて交渉に入ります。交渉の行方に関する不透明感は依然として高いものの、中東情勢に振られる展開が続いていたマーケットにとっては、ターニングポイントとなる可能性のある重要な進展と捉えています。また、一時的とはいえホルムズ海峡の通航が回復するのは、供給制約のリスクが高まっていた分野にとっては慈雨となります。忘れてはならないのは、停戦合意前から、イランが管理する形で通航が少しずつ回復していた点です。輸送に関する極度の悲観は和らぎつつあります。

北海ブレント原油は\$95/bblまで低下し、原油先物市場が織り込む将来価格も全体的に下方シフト、フォワードカーブに基づく2026年度の平均価格は\$83/bblとなっています。[当社の感応度分析](#)に基づく、この水準であれば、2026年度のTOPIX構成企業は前年度比8%程度の増益を確保できる見込みとなります。

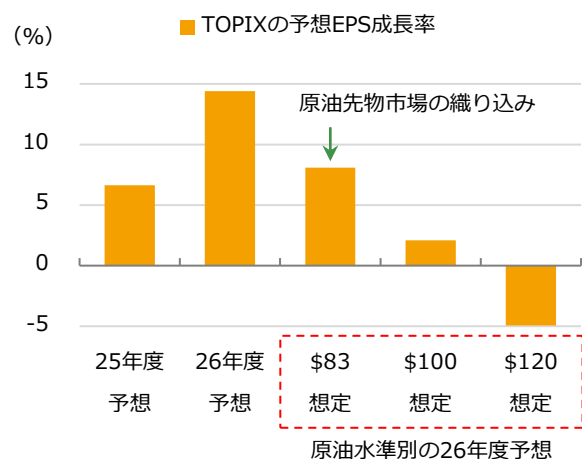
先物市場が織り込む今後の原油価格動向



※実績の直近値は2026年4月8日

(出所) ブルームバーグより大和アセット作成

ブレント原油のフォワードカーブに基づく、TOPIXの26年度予想EPSは8%成長となる



※2026年4月8日時点

(出所) ブルームバーグ、ファクトセットより大和アセット作成

3月以降のTOPIXは、10%の原油価格上昇に対して2%程度下落する傾向となってきました。本日の原油動向と情勢改善への期待を踏まえると、3月上旬以降のレンジの上限であった5万5千円台を超えてきた点に違和感はありませんが、一段高となり、2月末高値への回復を目指すには、米国・イランの恒久的な停戦の枠組みと、通航の回復への確信が必要となると考えられます。目先は、これまで続けてきたボラティリティの高い展開がなお継続しそうです。交渉が決裂して戦闘が再開・エスカレーションする可能性もあり、予断は許されません。引き続き、交渉の行方を注視していきたいと考えます。

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

最新のレポート掲載ページはこちら

<https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/countries/report/index.html>